

## 情勢報告（平成 28 年 10 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

### 農業担い手育成センターへ視察研修



視察研修の様子

J A土佐れいほくカラーピーマン部会 19人は9月23日、農業担い手育成センターでカラーピーマンの試験栽培やダクトファンによる環境改善について研修しました。

普及所からは、現在試験している雨よけハウスでの炭酸ガス施用実証の中間結果を報告しました。参加者からは「ダクトファンによる通風で、ハウス内の作業員だけでなく作物も快適な環境で作業や生長が期待できる」との意見が出ました。

普及所では、今後、ダクトファン導入による園芸農家のハウス内環境の改善を支援していきます。

### 秋期の収量を増やそう！ シントウ現地検討会の開催



保温・病虫害対策などが重要

9月27、29～30日の3日間、J A土佐れいほくシントウ部会では、栽培後期の栽培管理技術向上のため、大豊町、本山町、土佐町のほ場（各1戸）で現地検討会を開催し、26人の農家が参加しました。

普及所からは栽培後期の管理と今年度の実証試験の中間報告をしました。農家からは「栽培後期のアントシアン発生を抑える方法はないか」、「同一ハウス内での生育の違いはなぜ起きるのか」等、活発な質疑や意見交換が行われました。

普及所は、部会の目標収量を達成できるよう栽培後期の技術指導を行っていきます。

### キムチの味と所得率の向上を目指して！



6次産業化セミナーの様子

9月27日、本山町キムチ生産組合3人が、いの町総合保健福祉センターで開催された6次産業化セミナー実践コースに参加し、アドバイザーから直接指導を受け、キムチの味や包装・容器などの改善について助言をもらいました。

10月3日には、同組合がアドバイザーからの指摘事項をもとに、新しい味のキムチを試作し、普及所は売価に対する原価率を算出しました。検討の結果、作業の効率化や容器を変更することで、原価率を97%から69%に抑えることが可能となりました。

今後、普及所は、新しいキムチの求評と作業労賃の適正化について同組合と検討し、さらなる改善を支援していきます。

## トマト栽培技術向上に向けて ～「大豊とまと」現地検討会を開催～



現地検討会の様子

大豊町の有機栽培トマト農家を中心となり、栽培管理技術の相互研鑽と有利販売を目的として、今年5月に結成された「大豊とまと」（10戸）の現地検討会が9月31日開催され、農家9人が参加しました。

会は、普及所と関係機関が協議し作成したトマトの生育状況や栽培管理を評価する表を基に、各農家の良い点と悪い点を評価し合いながら、全戸を巡回しました。

普及所からは、生育診断のポイント等について助言しました。参加者からは「SNSを通じて情報交換を行っていたが、やはり現地で見ることが重要と思った」、「自分の改善すべきことが分かった」等の声が聞かれました。

今回は栽培後半の開催となったため、次年度は栽培初期と中期にも開催し、栽培技術の向上に取り組めます。

## 「土佐の豊穰祭」で就農相談



就農相談の様子

J Aや町村等の関係機関で構成する嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会（以下、農業部会）とJ A土佐れいほく園芸部は10月10日に本山町で開催された「土佐の豊穰祭」で、れいほく八菜の消費拡大PRや営農・就農相談を行いました。

農業部会では消費拡大を目指し地域野菜をふんだんに使った料理の販売や野菜の早積み大会で野菜をPRし、普及所は20代の新規就農者の紹介や就農相談コーナーを設け就農希望者1人の相談を受けました。

今後もイベントなどを通じて、消費拡大などで農業を身近に感じてもらい、さらに農業の担い手確保につなげていきます。

## ユズの出荷期間延長への取組



青玉ユズ出荷目慣らし会

10月13日に柚子部会員5人が参加して青玉ユズ目慣らし会が開催されました。

今回の目慣らし会は、これまでの黄玉出荷から、青玉～カラーリング～黄玉～貯蔵玉まで出荷期間を延長していく取組の一環であり、普及所からは、期間延長の経営改善効果や貯蔵技術などについて情報提供しました。

生産者の関心は高く、今年度は2人の生産者が青玉と貯蔵玉出荷を試行することになりました。

今後は、生産・出荷技術に加え施設整備も含めた総合的な支援を行い、次年度からの本格実施につなげていきます。

## 大豊町中学校で郷土料理伝承講習会を続けて19年！



郷土料理の伝承講習会の様子

10月18日、大豊地区農漁村女性グループ研究会のグループ員4人が、大豊町中学校で2年生14人を対象に郷土料理の伝承講習会を行いました。この取組は、平成10年から毎年開催しています。

当日は研究会員が栽培した農産物を使い、「銀不老寿司」「こんちん」「ぜんまいの炒め煮」などの郷土料理を生徒と一緒に作り、普及所は食材の栽培について説明しました。

生徒からは、「郷土料理を初めて知り、作って食べることができて良かった」「家でも作ってみたい」などの感想がありました。

今後、同研究会は、町内の青年を対象に講習会を計画（12月）しており、普及所は講習会の実施内容や開催に向けて支援していきます。

## 農家の経営改善を支援（PDCAを実践）



改善点について取組状況の聞き取り

普及所では6月から、JA土佐れいほく園芸部の米ナス・三色ピーマン・シシトウ部会の経営改善志向農家17戸を対象に、個別面談による経営改善指導を実施しています。

7月に作物別チェックシートで栽培上の課題と具体的改善点について自己チェックしてもらい、それらをふまえて栽培品目担当者と一緒に昨年の経営分析などから、今年度の目標収量や目標所得を決めました。8月から10月にかけて、各農家の目標達成に向けて栽培管理計画表や経費記帳を活用して個別巡回による進捗管理指導を行っています。

今後は、経営改善指導結果をとりまとめて農家と面談し更なる改善につなげていくとともに、その成果を各部会で報告（12月）し、29年度に経営改善を目指す農家を増やしていきます。